

発行日：2019年4月1日

「心豊かな地域」の実現に向け、実践の小さな積み重ね

目黒区議会議員
おのせ康裕



皆様こんにちは。目黒区議会議員のおのせ康裕です。
もえぎの会の利用者の皆様、ならびに後援者、関係団体の皆様には、日ごろから我が区の障がい者政策実現のトップランナーとしての法人の各事業にご理解、ご協力を賜り心より御礼を申し上げます。

親しんだ平成が御代がわりによって、新しい時代の幕開けとなります。もえぎの会の設立の礎となった活動から約40年。障害者自立支援法、差別解消法、バリアフリー、インクルーシブなどという言葉が皆無だったその時代に、子供たちの夢の扉を開くために、保護者の皆様や、協力者の皆様が、集まり、力を合わせて実現してきた目黒区の政策、施設、システムは、まさに皆様の作品であります。

昨年度開設された、旧4中跡地のグループホームは、入居者もいきいきと過ごし、併設された地域生活支援拠点事業も、順風満帆な航海中であると存じます。来年度中には特別養護老人ホームと障害者の通所施設、入所施設が開設され、旧4中跡地は、バリアフリー、チャレンジドの殿堂となる事でしょう。夢の扉はまさに、現実の物としての旅立ちを始めました。

多くの施設を運営されるようになり、もえぎの会自体の運営にも転換期がきている事かと存じます。スタッフの働き方改革、新しい技法や運営方法の工夫、世代交代への準備。多くの課題も散見されますが、それは日本社会全体も同じであり、そのような時こそ、「もえぎの会の設立の精神」「利用者の笑顔」を思い返してください。必ず克服できる力が湧くはずですよ。

さて、来年は待ちに待った東京オリンピック、パラリンピックの開催です。私は、小児麻痺で歩行困難な親友と長野パラリンピックの聖火ランナーを務めました。私は、今回の大会は、もえぎの会の皆様と、この首都東京の世紀の祭典を共に参加し、ともに体感し、喜びあえる事を夢見しています。

もえぎの会、ならびに後援会の皆様には、今後とも、素晴らしいチャレンジドとの共生にご支援・ご尽力賜りますようお願い申し上げます。

2019年度 もえぎの会 事業報告会・懇親会のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月20日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

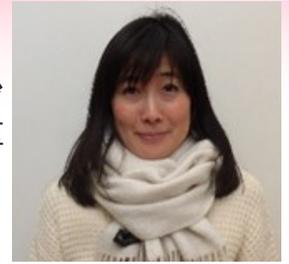
改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。



昨年の様子

もえぎの会 2019年度事業計画

組織拡大に伴い2019年度事業計画書を見直し、「本部」、「しいの実社」、「沙羅の家」を明確に分けて作成しました。そして、今年度のもえぎの会は6つの重点課題を取り上げました。



労働安全衛生法に基づく労働安全衛生体制の確立
労働者が50人を超える事業所は衛生管理者及び産業医を配置し、衛生委員会の設置が義務づけられている。労働安全管理体制を確立し、職場環境改善充実を図る。

諸規定の見直しとスタッフへの周知
適正な運営・サービスの提供を行うため、根拠となる規程を見直し、スタッフへ周知し、組織的な共通認識を深めていく。

スタッフの計画的指導・育成
これまで必要に応じてスタッフの指導・育成を図ってきたが、スタッフ数が増加したことから計画的な指導育成が喫緊の課題となっている。新規スタッフの受け入れマニュアルを作成、経験に応じたスキルアップを図る。

利用者の高齢化に対応した支援
利用者の年齢幅も広がり、体力や作業スキルの低下が顕著となっている利用者もあり、適切に対応することが必要になっている。研修や他法人の意見交換やケース会議等を通じて可能な限り一人一人にあわせたサービス提供に努める。

しいの実社学芸大学作業室の活用
しいの実社学芸大学の2階作業室は現在十分活用しきれしていない。狭隘な目黒の施設状況を鑑みて、今後の利用者受け入れ拡大や支援の充実を図るために作業スペースの有効活用に取り組む。関係者によるPTを設置し、活用案を作成する。

沙羅の家清水の入居者の受け入れ完了と短期入所の稼働率の上昇
入居決定した入居者については、本人の状況を踏まえながら受け入れ体制を迅速に確立させ早期の受け入れ完了を目指す。また、短期入所についてはグループホームの入居受け入れ体制の進捗状況に合わせながら、稼働率をあげていく。

これらの事業計画をもとに2019年度は法人の組織運営基盤を強化し、新たな事業展開に向けて前進していきます。

成人式を迎えました！

今年、しいの実社スマイルプラザを利用する3名の利用者が1月に成人式を迎え、恒例のお祝いをしました。しいの実社スマイルプラザは、この3名を筆頭に若さでエネルギーが満ち溢れています。3名は就労移行支援のサービスを利用しており、作業としてのパン作りや受託作業をしていますが、就労移行支援では、面接練習や学芸大学店での接客実習などのトレーニングもしています。

さらに、スタッフが同行して、外部の面接を受け、実習につなげ、最終的には就職を目指して活動をしています。



みんなでお祝い

移行支援には2年間という期限があり、ご縁もありますので就職に結びつくことは難しいのですが、このような努力が実を結ぶ日を期待して、利用者をサポートしています。



祐天寺カフェにて実習

第17回 しいの実祭 開催

恒例のしいの実祭が昨年11月23日(祝・金)に開催されました。

今回のテーマは「虹」。虹をモチーフにした装飾はかなりの力作で、祭りに華を添えるものでした。

天候にも恵まれ、1700人を超える来場者で賑わい、目黒区長をはじめ区役所、議会、関係団体、後援会会員、近隣の方などが来場して下さいました。



クラフトに区長お立ち寄り

区内の障害者施設の出店や、清水町会、後援会会員の協力による模擬店も大盛況で、午前中のうちに完売するメニューもあるほどでした。

後援会のバザーは、多くのお客様が開店前から待ち構え、開店と同時に押し寄せるといふ光景が恒例となっています。

建物内では、しいの実社の利用者が作った製品を買い求めるお客様で賑わい、特にパンの売上は過去最高となりました。無料で楽しむことができるコーナーも多数あり、こども向けの人形劇やバルーンアート、じゃんけんスタンプラリー、わたあめ、コーヒーなど、大人から子どもまで大満足

の祭りとなりました。

また今回はじめて、近くの音楽教室MGKに参加していただき、本格的な演奏会も行われるなど、年々盛り上がりを見せています。

多くの方々にご協力いただき、しいの実祭を成功させることができました。本当にありがとうございます。



テーマは「虹」全員の



イベントは今年も、大盛況!

しいの実社学芸大学店 開店10年

おかげさまで学芸大学店は、開店10周年を迎えました。お客様への日頃の感謝と新たなお客様への案内のため2月4日(月)から8日(金)までの5日間で色々なアイデアを出してキャンペーンを行いました。

ご家族から知合いの方へチラシを配布していただき、学芸大学東口商店街では10のお店にポスターの掲示をしていただきました。Lineやインスタグラムへの投稿などによる口コミの効果から多くの方が来店されました。

キャンペーンに合わせて新しいパンを準備し、お客様に好評でした。

さらに、社員の手書きのメッセージを付けたプレゼントは大変喜ばれ、各部門の限定品が起爆剤となり、お客様には目新しく、楽しくお買い物をしていただけたと感謝しています。目標1日150人を達成し、最終日は200人ものお客様で賑わい、キャンペーン終了後も来客数が増加しています。

これからも、社員・スタッフが力を合わせてお店を盛り立てる企画をしていきます。支えていただいたすべての方に感謝します。ありがとうございました。



キャンペーン向けできたてピザ

後援会

会員インタビュー

萌木



大正鉄筋コンクリート株式会社

目黒区目黒本町2-7-14
TEL 03-3714-0381
<http://www.taisho-ctc.co.jp>

後援会でも10年以上という古参会員となっていて大正鉄筋の阿部豊社長をお訪ねしました。目黒本町に本社がありますがその舞台は、北は北海道から南は九州まで、日本全国です。

大正12年に、社長のおじいさまが煙突を作る外資系の会社で身に着けた技術をもとに名古屋で創業され、現在の阿部豊社長が5代目と歴史ある会社です。創業95年を迎えた昨年は、日本各地に配属されている社員の皆さんが集まり、1泊旅行をされたそうです。

社名のとおり、鉄筋コンクリート製の煙突やタンクの製造はもちろん、補修や改修に力を入れられています。大正鉄筋さんが手掛ける煙突やサイロは、とても大きく、その存在感は地域のランドマークになるものです。

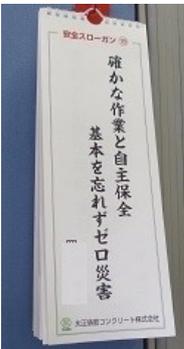


阿部豊社長

阿部社長は、別の会社を経験されてから入社されていますが、お話を伺う中で、ご自分の仕事・会社に対する愛着・愛情が伝わってきます。新入社員を育てることや定着してもらう苦労がありとも伺いましたが、長く勤められている方も多いそうです。それは、きっと大変な中でも自分たちの作ったものが長く残り、誇り・やりがいが見える形でも感じられるからに違いないと思いました。新しい技術を取り入れながら、安全第一を掲げられている社内の入り口には、社員一人一人が高い意識で作成された標語が掲げられていました。

阿部社長は、目黒区異業種交流会に参加し、地域のつながりも大切にされています。毎年しいの実祭でも駐車場をお借りし、お世話になっています。これからも、ぜひこの目黒の地で長く一緒にがんばっていきたいと思います。

社員作成の標語



『架け橋』となり、社会に大きく貢献して参ります。

株式会社アークリンク

目黒区下目黒3-2-10
TEL 03-3494-8565
<https://arklink.net>

前回ご紹介させていただいた東和工業と同じ建物にあるアークリンクの花野雅彦社長にお会いしました。「国内だけではなく、国際的なソリューションの『架け橋』を目指します。」と標榜されています。

花野雅彦社長は、リクルート社を始めとした企業で人材開発や教育事業、コンサルティング業務に携わられた経験を活かし、企業での研修やコンサルティング、海外での人材開発などを行っておられます。

「人材開発」事業では、アジアからの介護や建築関係の人材を開拓し、日本で受け入れるためのサポートをしています。新たな人材を確保するだけでなく、すでにいる人材のスキルを向上させることも重要視されていて、企業内研修も行われます。



花野雅彦社長

その研修では、スキルとして仕事の中で活かせることも伝えますが、やはり大切なのは心の在り方で、そこが変われば他のスキルや知識の吸収が格段にスピードアップしていくとのことでした。

事業の範囲が幅広く、大変ではないかと思いますが、社名にこめた「架け橋」という名前のとおり、すべての事業が繋がっていて、人材開発で出会った介護や建築の現場で、物販で扱うインソールやとまと梅が利用されたり、開発で出かけた先のアジアで今後割烹を展開したりすることもあるとのことでした。

「1964年」の東京オリンピックの話題がささやかれているのかと錯覚するような町、葛飾区立石に李栄浩先生をお訪ねしました。生まれ育った地元でみなさんのニーズに合わせ、内科、消化器内科、内視鏡外科、小児科、乳腺外科、肛門外科など、できる限りのことで貢献したいと2013年に開業されました。

「患者さんとは自然体に、私自身がストレスフリーでサービス精神に走らないようなスタンスの方が慎重な診療ができると思います」とおっしゃる李先生は、典型的な「お医者様」とは違う、親近感のある話しやすい雰囲気の方です。

クリニックの最初に「思いやり」と付けられたのは？とお聞きすると「下町情緒あふれる立石という温かみのあるこの場所に貢献し、私もスタッフも思いやりを持って患者さんに接していきたい。難しい事ですが、その気持ちはいつも忘れずに持ち続けたいという思いから名付けました」とおっしゃいます。

クリニックの特長は、日曜や木曜に開院されている事。いつ変化をきたすかわからない生身の人間にとっては大変心強い味方です。とはいえ、ご家族やスタッフ、みなさんの協力や支援があつての賜物。反対に春や夏に少し長めの休みを設定され、平日は5時までと比較的早い時間にオフとなっています。その時間、ジムでご自身の体のメンテナンスをされ、ここ数年は受験を控えたお子さんと勉強の時間を過ごされていたそうです。学生時代は野球にも全力投球。日本医科大学を東日本医科学学生総合体育大会の優勝に導いた投手でした。その文武両道のDNAはお子さん達に受け継がれ、中学受験を乗り越え、日本屈指の中学硬式野球クラブチームの一員となりました。「今までは、がむしゃらに進んできた感がありましたが、年齢的に節目でもあるので、これからは家族を含めライフスタイルを調整していきたい」とおっしゃいます。

「間もなく始まる再開発事業で町の外観は大きく変わっていきますが、下町の温かいふれあいは継承し残していきたい」と語って、見送ってくださった李先生の姿は、春雨に煙る立石の町の風景の一コマになっていました。



李 栄浩院長



医院 外観

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

所信表明

沙羅の家 施設長
長谷茂雄



沙羅の家は、昨年3月に沙羅の家 清水を開設し、利用者、スタッフともに急激に増加し、これまでにない大きな変化を経験しました。利用者の皆さんや後援会、地域の方々に支えられ、そしてスタッフの頑張りによって少しずつ実績を積み重ねることができました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

今年度、沙羅の家 清水は、グループホーム利用者の受け入れ完了と、短期入所の利用率の向上、そして地域生活支援拠点の活性化を通して、障害者が生活支援の充実を実感していただけるようにしたいと考えております。

そして施設長として、人材の確保とその育成を重点的に進めて参ります。支援職としての10数年の現場経験と昨年1年管理職を経験して感じたことは、「人」を支援するという部分で多くの共通点があるということに改めて気づきました。先日東京駅で見かけた、千葉県にある植草学園の広告看板に「障害者支援を学ぶことは、すべての支援の本質を学ぶことである」とあり、まさに私が感じていたことでした。スタッフには「世話人」「支援員」の業務としての仕事だけではなく、福祉支援職の魅力を感じられるように、福祉のOJTを進めていきます。

沙羅の家 清水
チーフ 大久保昌英

「沙羅の家 清水」開設1年を振り返って



目黒原町会の秋祭

沙羅の家 清水は、1周年を迎えました。ここまで、順調にすることができたのも、利用者の自立した生活、ご家族のご支援、関係者の方々、地域の皆様のご協力のおかげ、そして経験の浅いスタッフが多い中で、スタッフの連携のお陰と深く感謝しております。

開設当初は、定員18名(3ユニット)に対して3名の入居者でスタートしましたが、順次入居の受け入れを行い、今年の夏頃までには満室となる予定です。

振り返ってみますと、初めての女性ユニットや高齢者対応など慣れない局面の連続でしたが、スタッフの協力、助け合いに

より、対処できたことは、私たちの大きな自信へと繋がっています。

利用者が沙羅の家 清水で楽しく過ごし、幸せと感じてもらえるよう、一人ひとりと向き合いながら、支援を継続し、ご家族にも安心していただきたいと思っております。

今後とも、沙羅の家 清水をよろしく願いいたします。



「沙羅の家 清水」食事中



仲間とお出かけ

編集後記

皆さまのご協力を頂きながら規模の拡大が進む中でも、守るべきもの、変えて行くべきものを見極めながら前向きに進んでいきたいと思っておりますので、今年度もよろしく願いいたします。(岡田な)

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話：03-5724-7153

e-mail : shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

